

令和6年度 第1回

宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議

議事要旨

宇治市

宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事要旨

<開催年月日> 令和6年6月4日(火曜日)午前10時30分から12時まで

<開催場所> 宇治市役所8階 大会議室

<出席者>

多田 重光	公益社団法人宇治市観光協会 専務理事兼事務局長
長谷川 理生也	宇治商工会議所 専務理事
真山 達志	同志社大学 教授
小林 幸大	株式会社京都銀行 宇治支店長
永田 悠祐	連合京都南山城地域協議会 幹事
水腰 英樹	株式会社京都新聞社 南部総局長
小長谷 敦子	公認会計士
高田 悦子	特定非営利活動法人働きたいおんなたちのネットワーク 理事長
森崎 恭平	市民公募委員
山本 奈々	市民公募委員

計10名

<事務局等>

松村 淳子	宇治市 市長
川口 龍雄	宇治市 副市長
荻野 浩造	政策企画部 部長
大北 浩之	政策企画部 副部長
佐々木 卓也	政策企画部政策戦略課 課長
上田 敦男	政策企画部政策戦略課 副課長
服部 和夫	政策企画部政策戦略課 係長
辻 優貴子	政策企画部政策戦略課 主任
田口 茂仁	デジタル政策課 課長
濱田 孝浩	デジタル政策プロデューサー

計10名

<会議次第>

1. はじめに
2. 委嘱状の公布
3. 市長挨拶
4. 正副委員長の選出
5. 開会
議事(1) 次期創生総合戦略等の策定について
議事(2) アンケート調査について
6. 閉会

<会議内容>

1. はじめに

《事務局より挨拶》

《欠席委員の報告》

2. 委嘱状の公布

3. 市長挨拶

4. 正副委員長の選出

5. 開会

議事(1) 次期創生総合戦略等の策定について

《資料に基づき事務局から説明》

委員長) ありがとうございます。では、ただいま事務局からご説明ありました内容に関して、ご質問、ご意見、ご感想などございましたらお願いいたします。

今回、新たに策定する総合戦略は、説明の終わりの方にありましたように、デジタル化の要素を盛り込むというのが、今までとは違った特徴になります。これまでもデジタル化の意識は当然ありましたが、よりその部分が大きな割合を占めるものと思います。ただ、時代の流れだからと入れるのではなく、宇治市としてそれをいかに活かすかというのがポイントになるかと思えます。そのようなことも含め、これから策定を始めるということです。何でも結構です。いかがでしょうか。

委員) 今回お聞せいただいた内容の感想になるのですが、コロナの前と後でやはりデジタ

ルを使っていかないといけない、という危険性みたいな部分も感じられたのかなというふうに思います。物理的に隔離されるという部分もあったので、デジタルを「使った方がいい」という感じから、「使わなければいけない」という危機感を感じました。とはいえ、使える人もいれば、使えない人もいるという、格差のようなものもあるのかなと思います。あくまでデジタルは手段であるということをしっかりと念頭に置き、一番のゴールはこの宇治市の中で、より良い使い方とか、宇治市がより活性化していくという部分をちゃんと見ながらやっていかないといけないのかなと思います。最近ですとチャット GPT や AI などが発達していますが、その辺りも手段ではあるということ念頭に置いた上で、取り入れていくのは良いのではないかと感じました。以上です。

委員長) ありがとうございます。確かにデジタル化というとなんとなく、特にこのような計画の場合は行政の事務やサービスの部分だけに、注目が行きがちですが、やはり社会全体の中で捉えていく必要があるかと思えます。とりわけ今ご発言ありましたように、AI が最近非常に注目されていますが、プラス面マイナス面両方ありますので、そのあたりを宇治市としてどう活用していくのか。あるいはどこに注意をしていくのかというのは非常に重要なポイントかなと思います。他はいかがでしょうか。

委員) 人口減少を食い止めるとなった時に、若い世代を伸ばすのか、それとも高齢社会になっているときに高齢者が増えても、人口は増えると思えます。そうなった時に、デジタルが普及しても、高齢者が実際に使えなかったら意味がないと思うのですが、高齢者が増えてくる中で、デジタルを活用する具体的な方策について、何かお考えはありますかでしょうか。

委員長) ありがとうございます。今日はデジタル政策課長も同席して頂いていますので、今のご質問に対してご回答をお願いします。

事務局) 宇治市でも「誰一人取り残さない」というのを大事にしており、高齢者の方に対してもデジタルが使える社会が必要と考えております。その中で、やはり身近なデジタルツールでございます、スマートフォンの操作講座を公共施設などで実施するなど、オンライン申請など様々なことに高齢者の方もデジタルが使えるように、初級・中級・応用と区別しながら進めていきたいと考えているところです。

委員長) ありがとうございます。いわゆるデジタルデバインドと言われますが、一般的に高齢者が「不得意」「使えない」ということが言われています。それはそのとおりなのですが、世代という要素ともう一つ、好き嫌いや得意不得意という要素もあり、比較的若い人でも不得意だとかあまり馴染めないという人もいらっしゃいますので、必ずし

も高齢者全員がダメというわけでもないかと思えます。私も高齢者ですけど、学生にPC やスマホの使い方を教えることもあるぐらいです。そのような意味では、単純に世代だけでの話ではないとは思っています。少し雑談めいた話で恐縮ですが、デジタル化によりいろんなことがデジタルで処理できるようになることで便利になってはいます。ただ、例えば、スマホにしても、ATMにしても、デジタル化により便利になっている反面、操作は複雑になっていて、できる人にとっては非常に便利なのですが、よくわからない人にとってはさっぱりわからない状態です。そのようなことを先日学生たちと議論していたのですが、お年寄りでも、今ではテレビのリモコンぐらいだったらみんな使えますよね。リモコンが登場した頃はお年寄りの方は使えなくて、やはり手で直接操作するのがいいと言っていた時代もありましたが、私の母も90歳過ぎでもテレビのリモコンぐらいは使っていました。そのくらいのレベルでみんながいろんなサービスが使えるようになったら本当に便利になるのだろうなとは思いますが、そこを目指すべきかと思えます。機能だけ高度化され、そこに行き着くまでの操作が複雑になったのでは意味がないのかなと思えます。それは宇治市だけで解決する問題ではないのですが、例えば、宇治市の行政サービスをデジタル化していくときにも、できるだけそのような配慮をするということが大事なかなと思えます。もちろん若い人にとっても操作が少ない方が便利ははずですので。若干余計な話で恐縮です。他いかがでしょうか。

委員) 今回の戦略の中で、特に今デジタル化というのは重点的に組み込んでいこうという話もある一方で、デジタル化できないような交通問題であったりとか、それから、人と人のふれあう福祉のサービスであったりとか、そのような部分も並行して、デジタル化できるところは当然すべきですが、それ以外の部分をもう一度新たに見直していくという必要があるのかなと思っております。当然住みよいまちにするには、デジタルだけでまかなえるかということ、そうではない部分があるので、そのあたりを皆さんと様々協議ができればいいかなと思っております。

委員長) ありがとうございます。そうですね。デジタル化だけを見て、大事なところが見落とされてはいけません。やはり基本は「人と人」です。特に総合戦略ではその点を重視していければよいと思えますし、住みやすさとか魅力というところが重要だと思います。

委員) 普段は子育て支援の仕事をしていますので、この場では子育て支援のことを重点的にお伝えできたらいいかなと思っております。先程委員からもありましたとおり、私も「子育て支援」と「デジタル化」というのはどんな感じのものになるのかなというのをずっと考えていました。やはり先程おっしゃっていたように、人と人の触れ合いの中で相談・援助が成り立っているところがあると思っております。また、もう一つ、私が普

段思っているのは、昔だったら「絵本を見る」「家でテレビを見る」という子どもの育ちが、今はスマホでどこでも映像が見られるようになってきているなど、やはり子育ての中身もすごく変わってきており、お母さんの悩み事もすごく変わってきています。昔は家でテレビを見ていましたが、スマホだったらどこでも見られることで、「どこでも見せてほしい」という子どもは言うが、親はどうしたらいい、という悩みも結構多くあります。1歳でも普通にスマホ操作もするのですが、それはある意味、このご時世において小さい時から学ぶということも悪いことじゃないと思いますが、一方で子育ては一昔前のようにしっかりとお母さんが見なさい、という考えもあったりしますので、デジタル化が進んでいった世の中と、子育てとのギャップもなんとなく感じる今日この頃です、という感想です。

委員長) 確かにご指摘として非常に重要だと思います。今回、総合戦略の中に、デジタル化推進というのを組み込んだということのメリットとして、そのような人と人とのつながりが重視される分野と「デジタル」というところのバランスをどう取るか、どう相互補完できるのかという部分を戦略の中に盛り込めるといふところかなと思いますので、今出ましたようなご意見を反映した内容になっていけばと思います。

委員) 3 ページのところ、「地域社会のデジタル化の推進」という項目があり、一番下に「スマート農業などの導入」とあります。私の知り合いでも、自動車のホンダから独立して農業をやり始めた方がいまして、工場で生産管理をしていた知識を農業に応用してやっておられるのですが、なかなか採算が取れず、それだけでは生活していけないという状況のようです。スマート農業などを導入するときに、まず「指導者」をどう募っていけるかという点です。採算に乗らないと、恐らくそれをやるう、そして、この地域に定住しようということにはならないと思います。こうして、推進のところに書いて頂いていますので、その辺りをどう推進していけるかを、お聞きできたらと思います。

委員長) 現状で何か具体的にお答えいただけることございますか。

事務局) まず、委員の皆様から多数ご意見頂戴しまして、ありがとうございます。様々な委員の方から、デジタル化の推進だけでは解決できない課題というのもあるということで、本当に「人と人」といふ部分は今おっしゃっていただいたように、重要なキーワードかなと思っています。先程話を頂いたスマート農業という点でも本当にメリット・デメリットというのがあると思います。宇治市では行政改革を進めていく中で、業務の効率化を図ることで人の手をかける部分が効率化できて、その分、丁寧な対応の方に時間を割けるのではないかと、ということで進めております。農業や、子育て、医療、高齢者施策という部分も、デジタルが決して目的ではなく、あくまで手段・ツ

ールとして活用することで、市民の方の利便性が上がるような取組を検討していきたいと考えています。また、総合戦略の中にも、そういった観点を盛り込んでいきたいと考えております。

委員) 今デジタルの話がそれぞれ出ている中で、思ったことを述べさせていただきたいと思います。地域金融機関として地元中小企業の支援という観点から、今何にお困りかということ、人材の確保、人手が確保できないということはどの業界でも漏れなくついてくる課題でございます。我々は人を手当する部分のソリューションも当然行っているのですが、そんなに人がいるわけでもないということから、そこを埋めるためにやはりデジタルの技術を使っての省力化の追求や体制の再構築などのお手伝いをしています。ですので、デジタル化することが最終目標ではなく、デジタルを機能的に使って、いかにいい社会を作っていくかということが非常に重要だろうと思います。行政の立場からすると、当然ながら「誰一人取り残されない」ということも大切なことだと思ってお聞きしていました。一方で、我々が中小企業様相手にデジタルを推進するにあたって何がネックかと言うと、様々理由はあるのですが、結局「今までどおりがいい」という考えがあります。若い方、高齢者の方問わずやはり新しいことをするのは、それなりにパワーが必要です。説得や議決機関で決裁を得る手続きを含めて、そこには情熱も必要となり、ハードルが非常に上がってくるので、まずは、それを乗り越える本気度が問われるのだらうと思っています。高齢者の方は苦手だから、中途半端なデジタルでいいよね、みたいな着地になってしまうと、恐らく意味のないデジタルの推進になると思いますので、やるのであれば宇治市としてハイエンドを目指してぶっちぎりのデジタルを推進し、それを使いこなせる選別力も含めてですが、サポートを真剣にするぐらいの気概でやらないと、出来上がってはみたものの、中身はあまりといった話になるのではないかなというのは、お聞きしていて懸念するところでございます。

それから、総合戦略の3年の任期をいただき、これから皆さんと議論というところだと思いますが、我々も企業様のお手伝いをする中で、1年後の世の中がどうなっているのかというのは、従来以上に非常に見通しにくく、それだけ変化が激しい時代になっています。弊行も中期経営計画を組むのですが、果たしてそのとおり行くのかという話はいつもついてきます。それはこの会議体だけではなく、あまねく課題としてもありますが、当初議論していた内容が、途中でおかしいな、ということも出てくると思います。そうなった時にある程度柔軟に対応していくということも頭に置いておかないと、結果走り出して3年間必要な軌道修正ができずに、出来上がったなら全く時代とはマッチしていないということも起こり得る世の中のスピード感だと思います。そのため、進めていく上でそれを実現するためのスピード感というのは、従来以上に大切かと思っております。その点も踏まえて、議論を深めていければいいかなと思います。

委員長)ありがとうございます。

委員)アンケートの調査の実施ということで、転入出のきっかけが多い若年・中年層に意見を聞けるという機会を今回実施されるということですが、人口減少がある中で、若い人・子育て世代が増えてほしいという観点で言うと、宇治市がどうしたら若い世代や子育て世代に選んでもらえるかということを考えなければいけないと思います。人口減少が進んでいく中でも、子育て世代が選んでいるまちというのが、日本に何か所かあります。例えば、流山市やつくば市、明石市のような所で、若い世代が選ぶまちとしてどんどん人口が増えているというまちもあります。宇治市としては、宇治市の特色を生かしながら、こうしたうまくいっているまちのやり方なども参考にできる部分があるのではないかと、人口ビジョンの見直しなどを聞いている中で考えていました。私たち委員がこうしたうまくいっているまちの成功事例や、戦略・戦術というものを一人ひとりが学んでいけたらとも思いますし、それを宇治市に生かしていけたらなと思います。

委員長)ありがとうございます。

委員)私は京都市と京都府の担当をしており、特に観光について担当することが多かったのですが、宇治市はやはり観光資源がたくさんあり、インバウンドの方も増えておられますし、今度任天堂の新しいミュージアムができるということなのですが、やはり観光はどうしてもデジタルと切り離せない部分があり、いかに多くの人に魅力を伝えるかということも重要です。一方で、SNSで注目されることにより人の集中を招き、京都市内のようにオーバーツーリズムが起きるというような問題もあります。新しいこの計画の中で、第2期もあったように、おそらく観光をどうしていくという話がきくと出てくると思います。その中で宇治市らしいデジタルの発信をどのようにしていくかということをごさんと議論したいと思います。よろしくお願いします。

委員長)ありがとうございます。一通り各委員の皆さんからご発言いただきました。今日は、これから策定という段階で、具体的な内容に踏み込んだ議論ということではありませんが、今皆様から頂いた様々なご意見や方向性についてのお考えなどを、これから市の方で策定作業をする際の参考にしていただければというふうに思います。また、先程の委員のご発言の中にもありましたように、アンケートを実施する予定ということですので、次の議題にありますアンケート調査の方に議論を移したいと思います。では、アンケート調査について事務局からご説明お願いいたします。

議事(2)アンケート調査について

《資料に基づき事務局から説明》

委員長) ありがとうございます。では、アンケートに関しまして、何かご質問やご意見ありますでしょうか。

委員) 基本的なお話にはなってしまうのですが、この対象者と人数で 3,000 人が選ばれてこのアンケートを実施されるということですが、過去の返答率なども確認できますでしょうか。ざっと見た感じでは問題数も多かたりするので、もしかすると回答する人がいないというところでは、なかなかデータが得られないのではないかと考えた次第でございます。以上です。

委員長) ありがとうございます。こちら過去の例はいかがでしょうか。

委員) 前回の策定時には定住者向けのアンケートのみを実施しております。その時は 3,000 件配布し、回収票数 746 件、有効回収率 24.9% ございました。アンケート調査については、一般的に 400 件程度の回答数が確保できれば、ある程度信頼がおけるデータになると言われておりますので、25% 程度の回収率でも十分それを満たしている状況でございます。

委員長) 今回、設問が増えており、ハードなアンケートですので、回収率は若干気になりますが、統計上必要な数は確保できるだろうとは思いますが、他いかがでしょうか。

委員) 8 ページの問 20 「あなたが推進して欲しいと思うデジタル化の取組は何ですか。」の部分で、ここにある 6 つの選択肢の中になかった場合は、どこかに自由記述ができるようにした方がいいのではないかと思います。以上です。

委員長) 確かにこの設問には「その他」がないですね。何か入れなかった意図というのがあるのでしょうか。あるいは、単に抜けていたかどちらでしょうか。

事務局) 単に抜けておりました。問 19 と同様に、最後に「その他」の選択肢を追加し、簡単に記載していただけるような欄を設けたいと思います。

委員長) ありがとうございます。

委員) 今、委員がお話しされていた部分についてもう一点。あえて「あてはまるもの 1 つに○」と限定するのではなく、他と同様に複数選択ができるようにしても良いのではないかと思います。いかがでしょうか。

事務局)こちらにつきましても、委員よりご指摘いただいたとおり、複数選択していただいて何か差し支えがある設問ではございませんので、先程の修正と合わせて、「あてはまるもの全てに○」として修正させていただきたいと思います。

委員長)はい。どうぞ。

委員)アンケートについて、やはりいろんな統計を取るのにこれだけの設問数は必須かなと感じました。その中で宇治市の働く企業としては、私たちも定着をさせるというところが、企業の課題になってきますので、宇治市で働く魅力のある企業なども少しこのアンケート結果で知れたらなとは思いました。また、昨年度の設問数から、今回策定時に増えています。何か統計的にここを攻めたら、このような回答が得られた、等の結果をもとにこちらは策定されたのでしょうか。

事務局)統計的なデータをもとに設問を考えたということではなく、以前までお聞きしていた設問に、今回ポイントとなるデジタルに関連する部分を追加したり、聞き方が具体的にイメージしにくいようなものについては表現の修正を行ったようなかたちです。また、新規で追加した設問、例えば、Uターン意向については、会議の中で「一度宇治市を出られたけれども、子育て等のタイミングで宇治市に戻ってこられる方がいらっしゃるのではないか。」というようなお話が出たこともあり、推進会議の中でのご意見などをもとに増やした設問もあるという状況です。

委員)もしかしたら全然違うお話になるかもしれませんが、先程前回のアンケートの回収率が約25%とのことで、総計学的には、というご説明をいただきましたが、統計として成立するためにやっているのですか、というところが若干気になっています。75%もしくは、2,300人ぐらいの方がノーリアクションであったということも事実としては重たいような気がしています。市民の皆さんの本音を聞くという意味では、アンケートは非常に大切なツールだと思うだけに、アンケートの中身もそうですが、回収率を上げるためにもう一工夫何か努力をしなければいけないのだろうと感じました。というのも、例えば選挙の投票率が低いということがありますが、おそらく世の中の的には投票に行っても変わらない、というような諦めが大半なのかもしれません。それを考えると、アンケートに答えられない方は答えても変わらないと考えていて、実は不満を持っている方は未回答の方に多い可能性も往々にしてあるのではとの推察もあるかと思えます。もちろんそうかどうかは分かりませんが、個人的な意見ではありますが、ただ、半数ぐらいは回答をしてほしいという感覚もありますので、インセンティブをつけるというのも違うような気はしますが、何か回収率を上げるための工夫については必要なのかなと思いました。

委員長)ありがとうございます。回収率を高める工夫になど何かお考えになられていることはございますか。

委員)私もこのように分厚いアンケートが送られてきた場合、回答して送るかと言われたら、忙しいから無理というふうに言ってしまうかもしれません。普段宇治市内を歩いていると、やはり高齢の方が多いなというイメージがあるのですが、先日日曜日に太陽が丘の公園に行きましたら、こんなにも若い世代や小さい子たちが宇治市に集まってきているとすごく感動しました。実は、私は宇治に来てまだ1年ですので、太陽が丘の公園にじっくり行ったことがなかったのですが、「こんなにも若い世代がいる。ここでアンケートばらまきたい。」と思いました。ですので、そのような世代の方が集まるような場所で、少し手間暇がかかるかもしれませんが、アンケートを実施するというのも一つじゃないかなと考えていました。

委員長)では、先程のご意見含め回答をお願いします。

事務局)まず回収率向上に向けての工夫という点で、先程有効回収率25%程度と申し上げていたのが、5年前の令和元年度に実施したアンケートでございまして、それに対して今回はWEBでの回答ができるようになっておりますので、もしかしたら回収率が上がるのではないかと期待をしているところでございます。その他、例えば他市ではご回答いただいた方に対して、商品券などをお送りしているところもあるようですが、現状、宇治市としては検討ができてないところでございます。

次に太陽が丘のように人が集まるような場所でのアンケート実施というお話がありましたが、それに関しましては、例えば、子育て世帯に絞って実施をするアンケートということであれば、おっしゃるとおり効果として高くなるかなと思います。ただ、これまで行ってきたアンケートの目的として、属性が偏らないよう無作為で抽出した方に対しアンケートをお送りして、ご回答いただくというのも一定の意義があるものと考えておりますので、今回の定住者や転出・転入者のアンケートにつきましては、これまで同様、無作為抽出の対象の方々にご回答いただくのが良いのかなと考えております。

事務局)少し補足させていただきます。委員よりご意見いただいたように、そういった手法で、より多くの方にアンケートを答えていただくというのは非常に重要な観点かと思いますが、一方でこの総合戦略を策定するという市の動きを十分に知っていただく、という事前の広報というのも大事ではないかと思っております。もちろん先程委員がおっしゃったように、子育て世代の方に特に答えていただきたいという思いはあるのですが、先程の説明のとおり回答が偏らないよう無作為抽出で送りますので、手法として

はこういった紙面と WEB 等でいろんな方に回答いただきやすいようなフローにしていきたいと考えています。また、周知の方法などは今後検討していきたいと考えております。

委員長) アンケートにつきましては、特にこういった市民全体の意向を確認する場合には、サンプルの無作為抽出という部分が非常に重要になってきます。先程ご説明があったように、統計学ではサンプルの取得方法さえ間違えなければ、400 ぐらいの回答があれば、1 万件でも、2 万件でも、おおよそ同じ結果となると言われています。ただ、それはあくまでもサンプルが無作為に満遍なく取れている、ということが前提で、仮にサンプルの取得方法が偏ってしまいますと、逆に回収率が 99% であっても、市民全体でそうなのかという、そうとは言えないというような難しさがあります。一般的にはこの種のアンケートは無作為に抽出して郵送という形を取りますので、正直 25% 切るのは若干低いかなと思います。普通は 30% ぐらいにはなることが多いので、それはある意味、宇治市民が市役所のいろんなことに対して無関心ということなのかもしれません。そのあたりははっきりとはわかりませんが、是非アンケート送っておしまいではなく、可能な限りアンケート実施の周知や回答のお願いを、別の媒体などを通じて広報等していただいて、回収率を上げるようにご努力をお願いしたいと思います。他、何かご意見ありますでしょうか。

委員) アンケートではないのですが、以前に宇治市さんの会議の中で、この会議だったかどうかは曖昧ですが、全国での住みたいまちランキングというのを以前お聞きしたような記憶がありました。要は今住んでいらっしゃる方のアンケートもですが、住んでみたいランキングで今どれぐらいの位置付けなのか、もしくは、なぜ宇治市に住んでみたいのか、というのが統計上あったような気がするのですが、その点についてお聞きさせて顶きたいです。

委員長) はい。ただいまの質問に対して、どなたかお答えいただけますか。

事務局) ご質問いただきましたランキングについてですが、毎年、事業評価を行う際に「全国魅力度ランキング」を指標に掲げており、毎年順位をお伝えさせていただいているところです。そのランキング調査は、民間会社にて実施されており、それぞれの地域や都市の観光であったり、食べ物の人気度であったりといったアンケートを取っています。今回実施いたします定住意向や、戻りたくなるにはどういう政策が必要かというところとは若干異なるのかなと思っております。ただ、そういった民間がされているランキング調査も一定 KPI の中にも入れておりますので、そこも十分勘案した上で今後の施策につなげていきたいと考えております。

委員) 問 13 ですが、「子育てにやさしいまちの実現に向けた取組」ということで例が書いてあり、「これらの取組」を一括りとし、「子育てしやすい環境づくりにつながると思えますか」と書いてあります。この取組はつながるけれども、この取組はどのようなかなというご意見があった場合、答えにくいのかなと思ったのですが、いかがでしょうか。

事務局) 今回ここに QR コードも掲載し、宇治市が実施している子育てにやさしいまちづくりという中のプロジェクト事業のご紹介をさせていただいております。皆さんに中身をご覧になっていただいて、それが子育てにやさしいまちの実現につながるのかというのを、少し抽象的な聞き方ではあるのですが、まずはこうした取組を多方面でやっているという宇治市の実情を知っていただき、こういった事業の取組ではなかなか難しいのではないかなというような所感をお聞きしたいと思いで、こういった設問にさせていただいております。

また、一方で、宇治市では「子ども・子育て支援事業計画」を今年度策定する予定としております。所管は別の部署ですが、その中で、子育て世代やお子さんを対象にアンケートを実施しており、その他の子育てに関する取組についての詳細はそちらのアンケートにて把握できればと考えております。

委員長) 他はいかがでしょうか。

委員) 1 ページに対象者の年齢が 18 歳から 49 歳とあります。私どもの方では今、高校生たちに宇治市の良さの話など様々させてもらってしまして、その子たちが宇治市を学び、宇治市の良さを知って、その後住んでみたいなと思うような、そのような話もしています。18 歳からというのは何か縛りがあるのでしょうか。

事務局) 18 歳について縛りがあるというものではないのですが、例えば、お仕事に就かれて転出される方であったり、大学への進学で転出される方であったりと、一つのポイントになる年齢であると考えていることから、18 歳と設定しております。

委員) このアンケートの対象者について、今回 3 つに分けてのアンケートということで、特に転出者についてご質問をさせていただきます。転入者や今住まれている方のアンケートというのはなんとなくイメージがつきます。今住んでいて、自分事化できるという部分があったりすると思いますが、転出者のアンケートについては、どのようにしてそのアンケートをされるのかなという素朴な疑問があります。また、アンケートの回収率ばかりで申し訳ないのですが、転出者の回答率はどのような状況かということをお聞かせ頂けますでしょうか。以上です。

事務局)第2期創生総合戦略を策定してから、転出される方、転入される方について、なぜこれだけの方が転出されたのか、また転入されたのか、という分析を実施しております。ただ、この分析はあくまでも宇治市役所の中での考えですので、実際に転出された方に対して、なぜご転出されたかということを知くために、転出者のアンケートを実施しています。宇治市から転出された方につきましては、転出届を宇治市に提出していただきますので、その情報にて転出された先にアンケート調査票をお送りさせていただきます。また、回収結果でございますが、昨年度は定住者・転出者・転入者に対してアンケート調査を実施いたしまして、ご指摘のとおり転出者の方からの回収率が一番低く、回収率22.4%となっております。

委員長)やはりどうしても出て行った人はもうどうでもいいやという考えになりがちですので、なかなかアンケートまでは答えてもらえないのですが、それでも、22%を超えており、ご協力いただいている方かなとは思いますが。他いかがでしょうか。大体よろしいでしょうか。

では、このような3種類のアンケートをとって、その結果を参考にしながら総合戦略を策定していくというような流れになるかと思えます。様々ご意見いただきましたが、事務局の方から何かございますか。

《副市長より閉会の挨拶》

《事務局より事務連絡》

6. 閉会

《委員長より閉会の挨拶》